

各 位

会社名 ヤマト・インダストリー株式会社
 代表者名 代表取締役社長 岩本 宣頼
 (JASDAQ・コード 7886)
 問合せ先 責任者役職名 管理本部長
 氏 名 鈴木 昭仁
 (TEL 03-3834-3111)

特別損失の発生ならびに業績予想の修正に関するお知らせ

この度、当社において、特別損失が発生いたしましたのでその概要をお知らせするとともに、最近の業績動向も踏まえ、平成 22 年 8 月 12 日付当社「業績予想の修正に関するお知らせ」にて発表いたしました平成 23 年 3 月期第 2 四半期累計期間(平成 22 年 4 月 1 日～平成 22 年 9 月 30 日)の連結業績予想、ならびに平成 22 年 5 月 14 日付「平成 22 年 3 月期決算短信」にて発表いたしました平成 23 年 3 月期(平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日)通期の連結業績予想、同個別業績予想(第 2 四半期累計期間を含む)をそれぞれ下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 特別損失の発生について

平成 23 年 3 月期第 2 四半期連結会計期間において、当社の深谷（岡部）工場の土地・建物等の減損損失として 80,263 千円、また上場株式売却に伴う損失で 8,213 千円、その他 1,332 千円、合計 89,809 千円の特別損失が発生する見込みです。

2. 平成 23 年 3 月期第 2 四半期連結業績予想値の修正（平成 22 年 4 月 1 日～平成 22 年 9 月 30 日）

(単位：百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想 (A)	7,000	130	70	50
今回修正 (B)	7,044	146	66	29
増減額 (B - A)	44	16	▲4	▲21
増減率 (%)	0.6	12.3	▲5.7	▲42.0
(ご参考) 前期実績 (平成 22 年 3 月期第 2 四半期)	7,970	▲192	▲267	▲114

3. 平成 23 年 3 月期通期連結業績予想値の修正（平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日）

(単位：百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想 (A)	14,000	190	110	130
今回修正 (B)	13,950	170	40	▲10
増減額 (B - A)	▲50	▲20	▲70	▲140
増減率 (%)	▲0.3	▲10.5	▲63.6	—
(ご参考) 前期実績 (平成 22 年 3 月期)	14,724	▲143	▲262	▲541

4. 平成23年3月期第2四半期個別業績予想値の修正（平成22年4月1日～平成22年9月30日）
（単位：百万円、％）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想（A）	4,400	50	40	40
今回修正（B）	4,582	68	50	▲50
増減額（B－A）	182	18	10	▲90
増減率（％）	4.1	36.0	25.0	—
（ご参考）前期実績 （平成22年3月期第2四半期）	3,771	▲135	▲133	23

5. 平成23年3月期通期個別業績予想値の修正（平成22年4月1日～平成23年3月31日）
（単位：百万円、％）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想（A）	9,500	160	130	150
今回修正（B）	9,400	115	90	▲25
増減額（B－A）	▲100	▲45	▲40	▲175
増減率（％）	▲1.1	▲28.1	▲30.8	—
（ご参考）前期実績 （平成22年3月期）	8,253	▲144	▲129	▲248

6. 修正理由

昨年実施いたしました構造改革により、今年度において経費削減等の効果が顕著にあらわれ、業績回復のメドが立つまでに至りました。他方、急激な円高や中国での人件費アップ等、第2四半期累計期間後半においては先行き不透明感が高まってまいりました。これに加え、同期間において深谷（岡部）工場における不動産の減損損失等を計上したこともあり、特別損失が大幅に発生いたしました。

この結果、連結業績において、第2四半期累計期間で、売上高、営業利益では、前回修正より微増で着地する見込みですが、為替差損による営業外費用の増加や特別損失計上等もあって経常利益、当期純利益で下方修正をいたしました。

通期につきましては、比較的好調であった上期の影響は残るものの、下期においては先行きの不透明感もあり、売上高や営業利益につきましては若干の修正をしましたが、経常利益や当期純利益では、上記を踏まえ大幅修正をいたしました。

個別業績につきましては、期初からスタートダッシュした効果もあり第2四半期累計期間では、売上高、営業利益、経常利益とも予想を上回る結果となる見込みですが、減損損失を計上したこともあり、当期純利益では予想を下回るものとなりました。第2四半期累計期間においては、第1四半期に続き営業利益の黒字化を達成し、10月末には借入金の約定返済も再開できましたが、当社を取巻く環境における先行き不透明感が存在することもあり、通期につきましては、連結同様、売上高を始め、利益面も下方修正をいたしました。

今回の業績予想の修正につきましては、株主の皆様をはじめ関係者の皆様には多大なご迷惑ならびにご心配をおかけいたしますが、永田紙業株式会社や明成物流株式会社との連携を深め、より一層の業績向上に邁進いたしますので、何卒ご理解ならびにご支援を賜りますようお願い申し上げます。

（注）なお、上記の業績予想は、本資料の発表日時点において入手可能な資料に基づいて作成しており、実際の業績は予想とことなることがあります。

以 上